

2

「愛情の器」モデルとは

★「愛情の器」モデルの構築

愛着障害、愛着の問題を抱えるこどもを理解した適切な支援をしていくことで、愛着修復に近づきたいと思ったとき、支援としてただ何かをこどもに働きかけるだけでは不十分です。そのことを意識していただくことが必要だろうと考え、その支援の根底にある考え方をモデルにしようと思いました。

また、先節で「愛情欲求エスカレート現象」の説明をしましたが、これは支援において困難を極めるものです。「愛情を注いでいるのにこどもが改善しない」という徒労感を感じ、支援者を疲

弊させてしまう、一番注目すべきこの現象をわかりやすく説明するモデルをつくる必要も感じました。そこで発案したのが、「愛情の器」モデルです（図2-1）。

実際には、後者の問題意識からスタートしました。筆者がこの愛着の問題が「通常の家庭のこどもに増えてきた」という実感を最初に抱いたのは、学童保育の現場でした。

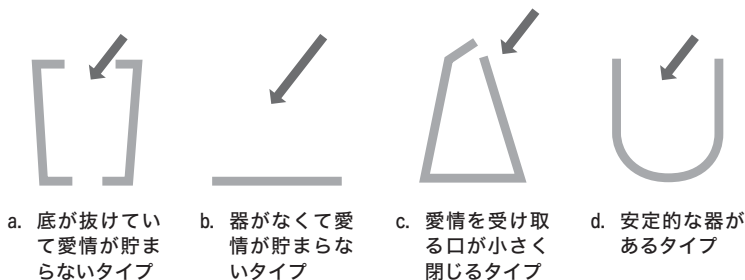
ある学童保育の指導員の先生から、こんな相談をいただいたのです。

その子は、学校ではとてもいい子で、問題はいつさい起こしません。しかし、学童保育の部屋に「ただいま！」と帰ってくるや、豹変し、暴れる、壊す等の問題を起こすのです。学校でいい子でいることがストレスなのだろうと感じたその先生は、他児より愛情を注ぐ特別扱いをしました。そうすれば、たくさん愛情をもらったこの子は次の日からちゃんと落ち着いてくれるだろうと期待して。特別な対応をしたその日は少し落ち着いて過ごすことができました。

しかし、期待した次の日は、前日とまったく一緒に、行動のさまざま問題が多発するのです。いや、実は、昨日と一緒にありません。指導員の先生は昨日と同じような特別な対応をしたのですが、その子は「こんなの、もういらない！」と、昨日の対応では満足できない反応を示したのです。そして「もっとこれもしてくれ！」と、どんどん要求がエスカレートしました。その要求に応じても、次の日はもっと要求が上がります。

こうしたこどもは、今でもよく見かけますが、これは、もらった愛情を感じてしっかりと受け止めて貯めておく「器」が、ちゃんとできていない問題ではないかと考えたのです。

図2-1 「愛情の器」モデル



★「愛情の器」モデルによるタイプの説明

この「愛情欲求エスカレート現象」は、「愛情の器」モデルによって説明されます。

人は、愛情でも音でもにおいでも刺激に対しては、最初は気づきやすいのですが、同じ刺激量がずっと慣れてしまつて気づきにくくなります。これは馴化^{じゆんか}という現象です。例えば、部屋に入った瞬間は芳香剤のにおいに気づきますが、部屋にいますそのうち慣れてしまうというような現象です。愛情も、誰でも最初にもらつたときはそれを快感と感ずるので、次も同じ愛情を与えられただけではそれを愛情の快感としては感じられなくなります。

しかし、「愛情の器」モデルのdタイプのように、以前もらった愛情を貯めておく「愛情の器」があれば、貯めてある以前の愛情と今もらった愛情が合わさつて、どんな場合でも愛情を確かに感じる事ができるのです。

それに対して、aタイプでは、もらった愛情を感じる器はで

きかけていますので、愛情を感じることはできませんが、底に穴が空いていて、もらった愛情を貯めておくことができません。ですから、愛情刺激に馴化だけが起こり、次にもらった以前と同じ愛情を愛情とは十分に感じられず、もつと欲しがってしまう、「愛情欲求エスカレート現象」が起こるのです。

「愛情欲求エスカレート現象」を起こしやすいaタイプは、脱抑制タイプと言えます。身体接触を好み、注目されたいアピール行動も多いのは、愛情刺激をもらうことには敏感でも、もらった愛情エネルギーを貯めておくことができないから、いつも構ってもらおうとするのです。

それに対してbタイプは、抑制タイプ・反応性愛着障害を表しています。そもそも愛情を入れる器ができていない状態だからこそ、人間不信で、人に近寄ろうとしないわけです。

cタイプは、自閉障害と愛着障害を併せ持つタイプを表しています。自閉障害があると、認知の障害のため、自分のこだわりの世界を大事にし、愛着対象を意識して愛情を受け取るという対人関係が苦手ですから、愛情を受け取る口が小さくなってしまう。

さらに、cタイプの場合、「愛情の器」のフタが閉まっていることがあります。その場合は、いくら愛情を注いでも、受けることができないのです。ですから、「愛情の器」のフタが開いているタイミングを意識してかわわり、支援する必要があります。一度や二度、かわわりがうまくいかなかったからと言って、そのかわわりがダメだと判断するのではなく、後で、違うタイミングで支援したり、違う人が違う文脈や流れでかわわりと、成功することも多々あるのです。